

発行 社団法人
所沢市シルバー人材センター

編集 広報部会

〒359-1143
所沢市宮本町1-1-2

電話 042-928-8695

FAX 042-924-0630

ホームページアドレス

<http://www.sjc.ne.jp/tokorozawa/>

ところざわ

祝

所沢市シルバー人材センターは

今秋25周年を迎えます

狭山湖の桜

撮影・山口地区の渡辺恭志さん



所沢市シルバー人材センターは、埼玉県下のトップを切って昭和53年10月20日、【高齢者事業団】として発足しました。その後、法人格を得て【社団法人シルバー人材センター所沢市高齢者事業団】（昭和57年）↓【社団法人所沢市シルバー人材センター】（平成2年）と名称を変えながら大きくなって参りました。

25年間の就労延人数はざっと100万人。トータルすると、驚くほど沢山の人が技能や力を発揮した勘定になります。その数ほど、受注者に益をもたらした事はいうまでもありません。

大世帯になった昨今は就業の公平化・平等化という古くて新しい課題が顕在化し、是正のための具体的な取り組みも始まっています。

このような努力の積み重ねによって、所沢市シルバー人材センターは4分の1世紀の永きにわたり、「第2のステージ」を求める中高年齢層の支えになり続けたのです。

今後のありようを模索しつつ、その足跡をグラフと写真で追ってみました。

（特集4、5ページ）

創立25周年定期総会の日程

平成15年度定期総会が次の日程で行われます。

日時 平成15年5月29日（木）

午後1時30分

会場 エスポワール「晨麓苑」

詳細は、後日ご案内致します。



福祉・家事援助サービス経験交流研修に参加して

(いきいき埼玉主催)

2月27日さいたま市で研修会が開催され、当センターからも福祉・家事援助サービスの仕事をされている会員の方々やコーディネーターが参加しました。

小手指地区 矢野節子

参加者139名。午前中は茨城大学生涯学習教育研究センターの長谷川幸介先生の講演を聞きました。親しみ易くユーモアを交え解り易い講義でした。

市場経済の中でのシルバー人材センターの活動は福祉の世界（互酬の世界）です。福祉とはしあわせ商品の開発であり、出来合の物ではない、心のこもった暖かいものであるとお話でした。

午後は会員の経験発表及び質疑応答がありました。経験談で心に残った言葉は「相手を好きになる」「笑顔が欠かさぬ」「ハイ！と返事をする」また「会社人間でしたが退いて今は多種多様の仕事をこなしている便利屋です」「話し上手より聞き上手になる」「心が見える仕事の進め方を常に努める」です。
最後の人は「ある日台所でお客様が倒れていた、即時に対処し大事に至らなかった」「一日が終わると有

難うの言葉がある」と体験を話されました。

貴重な講義と会員の経験談を聞き、今後活かせるよう努力し、多くの人達との出会いを大切に、そして楽しみに頑張りたいと思います。



コーディネーター 吉田詠子

今回、経験交流会に会員の方々と参加し、講師の話やシルバー会員の方の経験談を聞いた。

景気が低迷している状況で、センターの業績が多少なりとも右肩上がりであるのは、社会を活性化するために必要な力とされ、期待されているということが数字に表われている。

異業種同士が集まって協力のもと自分の経験したことのない世界

健康一ロメモ

大腸がんにご注意！

保健師 和田喜美子

「大腸がん」は最近男女共に増えています。食生活の変化による脂肪分のとり過ぎが原因と考えられています。食物繊維の減少も便通が悪くなり、大腸がんを引き起こし易くなります。また、半数は遺伝的要因が関係していると推測されています。私達の食べた物は胃と小腸で消化、吸収されますが、その残りから水分を吸収して便を作る役目をしているのが大腸です。

大腸がんの自覚症状としては①



排便時の出血（血便）②便が細くなる③腹痛④貧血などがあります。①の血便は目に見えない出血（潜血）もあり、見逃されることしばしばです。特に痔のある人はその出血と誤り込んでしまいがちですから、排便時の出血には十分注意し、少しでも出血のある時は検査を受けましょう。

検査は先ず便をとって「便潜血反応検査」をします。陽性になったら、必ず精密検査を受けて下さい。大腸がんを予防するため、年1回はこの検査を受け、野菜類を沢山食べ、適度の運動をして腸の運動を活発にするよう心がけましょう。

に飛び込んでいくことは大変なことではあるが、それが福祉の世界であつても、家事援助でも「福祉（＝幸せ）」という商品を開発し提供していけるのがシルバー事業である

う。その役割は、愛情と金銭の両面をやりとりする「ビジネス」としてのものであり、今その仕事の力量が問われているのも事実であるという講師の話が参考になった。

今回の研修はコーディネーターと

して、会員が就業意欲を持てる仕事を開拓していけるよう、会員とお客様双方の「しあわせ」を課題に進めていくことの大切さを痛感した研修であつた。

核家族化や女性の社会進出・高齢化が進む中、シルバー人材センター特に福祉・家事援助サービス事業の役割と挑戦をどのように考えていったらよいのだろうか？

これは永遠のテーマである。

おしましませう

職場訪問記

(23)

今回は当シルバー人材センターにとつて有数の得意先であり、地域の消費生活を担う大規模小売店の西友小手指店に伺いました。季節によっては50余名の会員が食品の陳列補充や生鮮食品の加工、屋内外の軽作業、植栽剪定、レジ等の職場で働いています。そのひとつ地下1階でカートや買い物籠の整理等の作業を担当している、会員の小川潔さんを訪ねました。

・・・*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*
2月中旬、午後4時頃の店内は夕食の食材等を買求める親子や勤め帰りの買い物客等で賑わい、最繁時の先触れという様相でした。小川さんはご自身の終業を待つて快く案内してくださり、管理マネージャーの荒井さんにもお会いして話を聞くことができました。

この現場には、小川さんを含む4名の会員が週4日間、お客様の流れにあわせて午前9時～午後4時・午前11時～午後6時・正午～午後7時の実働6時間の勤務形態でローテー



ションを組んでいるとのこと。来客数は店舗全体で1日平均約7千から1万人、地下売りの来客数は推して知るべしである。間断なく歩き回りカートを押し、籠を片付け、お客様に声をかける。「結構ハードな仕事です」と小川さんに言うと「当初は2キロ近く痩せましたね、一日に2万歩ぐらい歩きますから。調子がいい、健康に凄くいいです」と満足げにいう。荒井マネージャーは「小川さん達のお陰で、何時行っても所定の場所にカートがあり、籠が整理されている、これはお客様にとつては嬉しいことで、安心です。しかしこれを維持することは大変だと思

う」と労って言う。更にお二人は交々『お客様が来て籠がない……どうしようかと迷っているところへ「こちらをどうぞ」と声をかけて籠を差し出す。黙って出されるよりお客様はホットする。籠を集めるときにも使いつ終ったから、サアツと、持っていられるより、「これ片付けていいですか」「有難うございます」と言つて手を出す。お客様の使用権みたいな余情が残っているかもしれない。お客様心理の機微を掴んだその一声がすぐ大事です。声を出すから反応があり、片付けといつてもタイミングが難しい。……籠が整然と積みまれている、高さに凸凹があつては駄目、バランスがとれて美しさや安定感がでる、取りやすい高さはお客様に好感をもたれます』と語ってくれた。

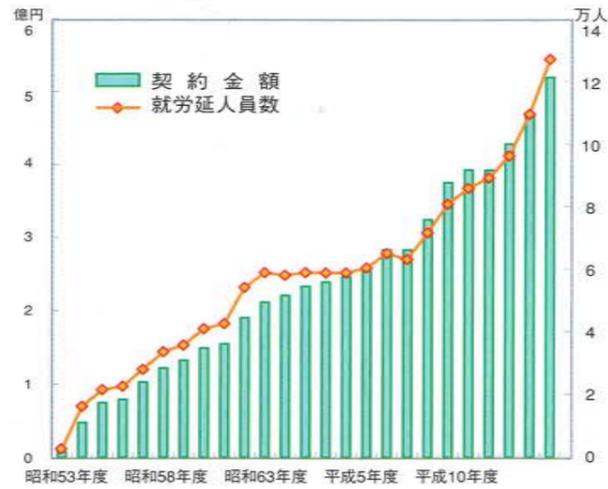
話を聞いていて単調作業ではという先入観に「ガツーン」である。小川さんは「常にお客様ならばどう考えるだろう」と注意しながら作業をしていると言う。一番気を使っているのは混み合う店内でカート等をお客様や商品にぶつつけたり、傷ついたりしないよう安全移動に心がけている。必然的に「いらっしやいませ・

有難うございます」の声を出し互いに注意する。嬉しかった事はと問えば、同じ時間帯に来るリピート客が顔なじみになり、籠をとつてあげたりすると「すみません」「有難う」が返ってくる。やはり嬉しいですね、「励まされますよ」とあくまで前向きだ。「小川さんは接客関係の表彰を受けられたそうですね」と尋ねると当たり前仕事をしているだけですからと、触れたがらない。荒井マネージャーは「本社の社長表彰ですから立派ですよ」と讃える。日頃の心構え、気配りを表彰から逆に窺い知る思いでした。

最後に取材協力に謝し、大勢の当センター会員がお世話になっていることについてこれからもよろしくお願ひしますと挨拶すると、マネージャーは「うちも助かっていますんですよ。皆よく働いてくれます」と言っておられました。(粕谷記)



シルバー人材センター 25年の変遷



3月 イラク戦争勃発
10月 北朝鮮に拉致の5人帰国
5月 日韓・サッカーW杯開幕
9月 狂牛病感染の牛確認
9月 米国で同時多発テロ発生
9月 シドニー五輪で高橋・田村金メダル
7月 2千円札発行
2月 TV朝日、所沢市の野菜から高濃度のダイオキシンを検出と報道
2月 長野五輪冬季大会開催
8月 ダイアナ元英皇太子妃、パリで交通事故死
4月 消費税率5%に上がる
12月 ペルーで日本大使公邸人質事件発生
3月 東京の地下鉄でサリン事件発生
1月 阪神・淡路大震災発生
9月 「関西国際空港」開港
6月 皇太子結婚の儀
5月 Jリーグ開幕
9月 学校の週5日制スタート
5月 雲仙「普賢岳」噴火で土石流発生
1月 湾岸戦争勃発
12月 秋山豊寛氏、日本人初の宇宙飛行
11月 ベルリンの壁崩壊
1月 昭和天皇死去、新元号を平成と定める
3月 青函トンネル開通
1月 所沢市新庁舎で業務開始
11月 伊豆大島の三原山噴火
4月 チェルノブイリ原発で事故発生
8月 日航機・御巣鷹山中に墜落
3月 グリコ・森永事件発生
10月 ロッキード裁判
4月 東京ディズニーランド開園
2月 日航機、羽田沖で墜落
11月 王貞治選手が現役引退
9月 イラン・イラク戦争始まる
12月 ソ連軍・アフガニスタンへ侵攻
5月 「新東京国際空港」開港
4月 所沢航空記念公園オープン

昭和53年

10月 所沢市高齢者事業団設立、会員100余名
初代理事長に増村敏雄氏就任

昭和54年

5月 会報誌「会員だより」創刊

昭和55年

9月 「おさらい教室」「書道教室」開講

昭和56年

4月 (株)シルバー人材センター所沢市高齢者事業団設立

昭和57年

5月 昭和57年度契約高1億円突破

昭和58年

9月 会員400名を超える

昭和59年

8月 初めての会員親睦日帰り旅行実施

昭和60年

5月 女性会員100名を超える

昭和61年

4月 当団事務所を現地に移転

昭和62年

10月 創立10周年記念大会開催
10月 記念誌「10年の航跡」
5月 発行会員500名を超える

昭和63年

2月 婦人部を新設

平成元年

6月 (株)シルバー人材センター所沢市高齢者事業団から
(株)所沢市シルバー人材センターに名称変更

平成2年

5月 第2代理事長に高橋義男氏就任

平成3年

11月 当センターAランク達成
4月 「茶道教室」開講

平成4年

4月 広報部会発足

平成5年

5月 平成8年度契約高3億円突破
5月 第3代理事長に高野英二氏就任
4月 福祉・家事援助サービス事業発足

平成6年

5月 創立20周年記念大会開催
5月 記念誌「20年の航跡」発行

平成7年

3月 会員1000名を超える
1月 就業機会開拓専門員の設置 (3名)

平成8年

2月 職群班の設置
5月 シルバー人材センター親睦会発足

平成9年

5月 平成12年度契約高4億円突破
11月 「編物教室」開講

平成10年

1月 適正就業推進委員会発足

平成11年

5月 第4代理事長に秋山脩氏就任

平成12年

平成13年

平成14年

平成15年



20年～25年



16年～20年



11年～15年



6年～10年

発足～5年

介護を体験して

3月4・5日、10～16時の日程で介護講習会が旧庁舎4階で開かれた。講師はフジケン島田俊子・武藤康美両氏。参加者は男女半々。これまでは女性の参加が多く、回を重ねるごとに男性会員の参加が増えているのは大変いいことで、積極的に動き活気のある実習となった。

1日目の車いす操作は、今回が初めての屋外実習。旧庁舎周辺の道路を車いすに乗って直接体験した。一方、押す人はいろんな障害物に注意しながら沿道・横断歩道や坂道を交替で実地体験したが、やはり整備されていない箇所だと意外に大変であった。



2日目のベッドから身体を起こし移動させる実技では、さほど力が無くても基本的な動作を覚えることで無理なく体位交換させることができた。介護者の力を少なく使って、より大きな効果を上げることが大事とのこと。講師の綿密な手順を参考にしながら、反復動作で紙おむつ交換や寝間着の着脱なども無理なくできた。最後に手浴・足浴など清潔にする実習で今回の講習は終了した。

2日間の介護講習を受けて、一つひとつ納得する実習体験であった。自分自身が健康な時は介護する側は当然だが、いざ介護される側になった時、両方の立場での心構えを覚え「介護はしてあげるのではなく、させてもらっているという気持ち」が大切であることを学んだ。(岩崎記)

2日間の介護講習を受けて、一つひとつ納得する実習体験であった。自分自身が健康な時は介護する側は当然だが、いざ介護される側になった時、両方の立場での心構えを覚え「介護はしてあげるのではなく、させてもらっているという気持ち」が大切であることを学んだ。(岩崎記)



車いすでの屋外体験



体位交換の実習

地区だより

当センターには地域別組織として全部で11の「地区」がある。それぞれに地区委員(1名)副地区委員(1～2名)班長(3～14名)がおり、事務局との連絡や会員同士の情報交換をして、親睦を深めている。各地区とも年1回総会を兼ねた親睦会を開くのが常だが、年度末とあって、2月は地区懇談会が目白押し。活発に地区の交流が行われた。

2月中に開かれた地区懇談会の様子を簡単に報告しよう。

▽2月7日山口地区(地区委員・大坂秀吉氏) 岩崎上町自治会館で。会員18名参加。放置自転車の撤去作業をしている会員から第2駐輪場の人員を増加して欲しい、指導員と同様に作業服を支給貸与して欲しいなどの要望が出た。

▽2月9日新所沢地区(地区委員・山口博氏) 新所沢公民館で。会員45名参加。手作りのおつまみや芋の子汁など盛り沢山のご馳走にカラオケ、踊りもあり、楽しい1日を過ごした。会員からは宿直業務の厳しさや突然仕事を切られた人の訴えもあった。



和やかに……新所沢地区

▽2月14日所沢地区(地区委員・丸鬼春雄氏)とこざわ荘で。会員20名参加。カラオケやビンゴゲームで楽しんだ。

▽2月20日中央地区(地区委員・矢沢芳郎氏) 並木公民館で。会員24名参加。緊縮財政の折から、総会に配布する資料や名簿、広報誌の一部カラー刷りなどを見直したらどうか等の発言があった。

いずれの懇談会にも事務局から秋山理事長、上田事務局長、山川事務局次長らが出席、事業実績の説明や就労の適正化などの話し合いが行われた。

以上4地区以外の7地区の懇談会はいずれも14年中に行われており、14年度の地区懇談会はすべて実施済みとなった。(島記)

安全委員会活動報告

平成14年度は会員安全就業推進委員改選の年であり、就業途上及び就業中の事故を撲滅すべく活動をスタートしました。年間を通し就業現場訪問、事故現場検証、植木職懇談会、安全研修会等を開催しましたが、事故発生件数は13年度を上回る結果となりました。

特に傷害事故については18件の増加となっており、重篤事故はないものの大事になつてはと懸念されます。シルバー保険での対応範囲は通院（3千円/日）入院（4千5百円/日）死亡（9百万円限度額）ですが、これは見舞金程度の保証であり「痛さ等の苦しみを和らげるもの」ではありません。

現実的には会員一人ひとりが事故無く健康に就業して頂くことが良いのです。ちょっとした事から自身の健康を損ね、就業出来なくなつては元も子ありません。それには加齢による体力の低下を認識しての行動、特に自動車・自転車運転する際、天候等による状況の変化に気をつけ安全を心掛ける事が大切だと考えます。

また、2月25日には安全就業活動

が活発な春日部市シルバー人材センターを視察訪問しました。やはり安全就業達成への近道はなく、センター会員・職員の安全への徹底した心掛けだけが唯一の方法であると改めて教えられました。

毎年の事ではありますが「事故ぜ

武蔵野散歩

湧水を巡る(2)



貫井神社を出て「はけ」の道を更に20分程行くと、深閑とした雰囲気の滄浪泉園がある。(入園料・大人100円/60才以上は50円、休園日・毎週火曜日)

3千5百坪程の庭園内には多種の樹木が鬱蒼と茂り新緑が美しい。崖下の砂礫層からは豊かな地下水が湧き出て池に流れ込み、鴨・カワセミ・鶯などの野鳥が多数飛来し春の訪れを告げている。

この一帯は、古代多摩川が次第に南西に移って行った途中で作った最も古い段丘の一つに位置しており、地形学上「国分寺崖線」と呼ばれている。

ここは大岡昇平氏の小説「武蔵

口」を目標に、平成15年度もお互いに声を掛け合い安全就業を心掛けましょう。

なお、委員会では安全講習会を今年度も企画しております。皆様のご参加をお願い致します。

(事務局 田中義明)

野夫人」の舞台となった所で、特に新緑や紅葉の季節には訪れる人が多いとの由。

「はけ」と「湧水」を巧みに生かした由緒ある庭園を後に、更に武蔵小金井方向に歩くこと約30分、中村研一記念美術館に着いた。

この美術館は日本洋画壇の重鎮として活躍した中村画伯のアトリエ跡で、ここで数々の名作が制作された。展示室には油彩画・素描・陶芸作品が多数展示されている。自然がよく残されている美術館の裏手には豊かな湧水が池に流れ込み、溢れた水は「はけ」の小径脇の水路を通って野川へと注いでいる。画伯が愛用した茶室「花侵庵」もそのまま保存されており、喫茶室でお茶を飲みながら暫し時を忘れ、往時を追想するのも楽しいものだ。(加藤記)

はくがくたわー 薄学駄話

ゴミの量はどれだけあるの？

所沢市の年間に出る総ゴミ量は平成13年度で約13万3千t、1日に364t(市民1人当たり1kg強)が排出されている。大半は燃やせるゴミで約10万t。この量は旧庁舎の約4個分近い膨大な量である。これを東部・西部の2カ所の清掃事業所で焼却処理されている。年々増加するゴミの処理能力は、限界にきている。

今年4月に市内日比田に東部清掃事業所が移転し東部クリーンセンター(1日の処理能力230t)として開業したことで所沢市では1日約330tの処理が可能となり、従来より約17%処理能力がアップすることで環境にやさしい施設として期待されているが、これにも限度がある。

排出されるゴミを再利用することでRDF(廃棄物固形燃料)化、プラスチック容器・包装リサイクル再生で、一部ではあるが市の負担する費用は10分の1に軽減される。今後は、ゴミの減量化と資源物の回収・再利用を積極的に取り組む等、市民一人ひとりが意識を持つ時期にきているのではないか。(山崎記)

《シルバー宣言》

手作り作品の販売

旧庁舎の階段を2階へ上がるとショーケースが見えます。ケースには会員の方々が特技を生かした色々な作品が展示されています。

本皮細工の小銭入れ・ふくろう、ぬいぐるみ、ペンダント、帽子留め、ゴム鉄砲、独楽、竹とんぼ、ヨーヨー、竹細工の筆立て・額、焼き物、七宝焼のアクセサリー、アクリルタワシ、押し花付手帳・葉書・箸袋、布製バッグなど趣味を生かした「愛情あふれる作品」です。

ケース横には四季を描いた色紙や短冊が飾られています。



作品はすぐ飾って頂けるよう掛け替えを行っています。

お手頃な値段もうれしいところ……

生活にゆとりの華をさかせませんか？ 見に来てください。

25周年を振り返って

当センターも早いもので25周年を迎えようとしています。

昭和53年発足当初の会員数150名、現在は千4百余名となっています。

シルバー人材センターを取り巻く社会環境も厳しさを増す中で、混迷の時代を思考錯誤しながら進むべき方向を見出しているように思います。

私自身25年間の中で、初代理事長が「シルバー人材センターは一つの事業体である、経営感覚をキチンと持って運営していかなければならぬ

い」と常々強調されていたのを忘れる事が出来ません。

センターは、会員が自主・自立・共同・共助の精神に立って積極的に就業する生きがい集団であることから、会員自身も健康と生き甲斐を求めて入会されています。会員数も事業実績も急速に伸びて来ました。

今後、センターが会員に対し、少しでも多くの就業機会を提供するためにどのように活動し、その内容をどこまで充実できるかが、この先自身の課題と考えます。

(事務局次長 山川裕二)

お詫びとお知らせ

平成14年度の「会員作品展」について、開催中止を事前にお知らせしなかつたため、製作に励んでおられた会員の方々にご迷惑をお掛けしましたことを事務局一同深くお詫び申し上げます。

センター事務局は、昨年比し職員数が減少しておりますが、センターの運営状況に鑑みて補充を差し控え、業務の合理化・効率化に努めております。

ご存知の通り、会員作品展は会場の設営、作品の整理・展示・保管等にかんがりの手間と時間を要し、その間業務に支障を来たしているのが現状であります。従って、現体制等から判断して作品展を継続することが困難となり中止することに致しました。(理事会承認)

何卒ご了承頂きたく存じます。なお、会員の方々が作品展などを自主的に企画・運営される場合は、事務局にご相談ください。職員一同、時間の許す範囲で協力したいと思います。

また、皆様にお配りしている「会員名簿」についても、個人情報漏洩等の観点から今年度の発行を見送る(但し、地区委員への班別名簿は従来通り)ことが、理事会において承諾されましたのでお知らせ致します。(事務局)

○健康相談日

5月6日(火) 午後
6月2日(月) 午後



あとがき

▼「右肩上がりが当然」の時代は過ぎたといわれますが、シルバー人材センターは25年間、ともかくも右肩上がりに成長してきました。関係者、とりわけ事務局職員のご苦労が大きかった筈です。

▼特集の一環として創立以来「シルバーと共に歩いた山川事務局次長」より原稿を頂きました。

職員3名での出発。集金から、植木の残滓処理に至るまで八方に活躍された時代を振り返って頂きました。前に進むため、時には後を振り返ることも必要かと思えます。この特集が何らかの糧になれば幸いです。

▼年のせいかな、がんを患っている人を身近に沢山聞きます。予防に努めていられるうちは幸せなのかもしれません。「健康一口メモ」を読みながら思ったことです。

▼表紙の写真は「写心サークル」渡辺氏の作品。天候を見ながら、花期の短い桜の命をみごとにとらえて下さいました。(鳥記)